

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋㈱					
工期	令和6年4月1日	～	令和7年3月31日	作成者	加藤 博也				
作業名称	緊急ポットホール補修		作業手順書	作成年月日	令和3年9月21日				
使用機械 使用設備	1ボックス車 1台 (必要に応じて2tトラック使用)、		改正年月日	令和4年7月22日					
	標識車 1台		現場責任者						
使用工具、機器	一輪車、スコップ、ほうき、台車、ブロアー、シラスンダー、からまんてーW、レッドホーンW、土嚢袋		協力会社	会社名					
			協力会社責任者	自筆サイン					
保護具	ヘルメット、安全靴、脚絆、マスク、手袋、視認性の良い作業着、自発光チョッキ(夜間及びTN内)		作業順序						
材料	アスファルト合材(常温合材)、アスファルトスプレー								
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	自動車運転免許証(大型)								
	振動工具取扱作業安全衛生教育								
作業人員	作業責任者 1人、作業員 2名、保安員 2人								
	合計 5名								
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)	周知会実施日				令和4年7月28日			
	(役割を確認してこの作業に関わる全員が自筆サインする)								
						1	事前準備		
						2	出発～現着		
					3	作業開始			
					4	後片付け			
					5	現場離脱			

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○○	○△	○△、△○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△○	△△	○×、△△、×△	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×○	×△	△×、×△	3:中程度	職長が確認
				××	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
					5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目 (誰が)	手順 主なステップ	急所 作業のポイント	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)	
準備作業(全員)		健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。 工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。 担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。 車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。								
現地確認(全員)	作業箇所確認	危険ポイントの確認								
	ケーブル等周辺安全確認 (埋設物・構造物)	管理用図面で事前確認	図面がないケーブルが確認された場合、作業を中断し、担当者へ報告すること。							
事前準備	出発前の車両点検及び道具の準備	忘れ物がないよう全員で準備を行う	重量物を降ろしたり運ぶ際に腰を痛める	×	○	×○	3	安	重量物を運ぶ際は、2名以上で声を掛け合いながら運ぶ。	
			荷台シート養生時に足を滑らせ転落する	△	△	△△	3	安	単独作業は禁止とし、2名以上にてシート養生を実施する。	
出発～現着	基地(事務所) 出発及び路肩流入・現着	現場付近の路肩及び車線内への流入を行う	冬季 雪氷期間 作業区間の速度協議実施	情報板及び速度表示切替え連絡を忘れる	△	○	△○	2	公	「作業中」「50km規制」をNEXCOと協議し、作業区間に規制が入ったを確認する
			後続車への注意喚起が遅れ、線形や視界が悪い場合追突される	△	×	△×	4	安	道路線形等を考慮し500m以上手前から回転灯、表示等を明示する(視界が悪い場合は、1km以上手前より実施)	
作業開始	簡易路肩規制設置	車両の切れ目を確認し設置する	交通量が多い、又は狭小路肩内に作業時一般車と接触する	△	○	△○	2	安	誘導員の合図の元、車両の切れ目を見て設置する 標識車後方に矢印板を3枚設置し、1枚目の矢印横にピカポン設置	
			TN坑口出口で作業時、一般車と接触する	△	×	△×	4	安	TN坑口(出口側)の作業時は、上流側(入口側)の坑口に後尾警戒として標識車を設置する。	
作業開始	現場清掃の実施	車両の切れ目を確認し清掃する	清掃時一般車と接触する また、清掃ガラが飛散し一般車にあたる	△	×	△×	4	公	誘導員の合図の元、作業を実施する 車両通過時は、作業の手を止める	
			As合材を充填・転圧	As合材を敷き均し、手つきタンパーにて転圧する	△	△	△△	3	公	充填時は、転圧沈下も考慮し行い不要な場合は除去する
後片付け・離脱	後片付け・離脱・機材整理	清掃作業を確実に実施	手元作業に集中する余り、一般車両に気が付かず一般車と接触する	×	×	××	5	安	作業従事者は、全員必ずシラスンダーを装着し、危険時は発信を行い回避を行う事。	
			清掃作業を怠り、一般車両通過時に骨材が飛散し管理瑕疵となる	△	△	△△	3	公	従事者全員にて清掃完了確認の実施を徹底する	
									工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事	